

# 芝に就て

大 岩 金

## 一、芝附けの時期

芝附けの時期は三月下旬から六月迄及び九、十月頃まで居りますがその中でもこの四月は最も適當な時期であります。即ち早すぎました場合には未だ寒さの爲に發育がよくなく、又晩く六月頃にもなりまして雨期に入ります。植附けしました後の濕氣の爲には都合がよろしいけれども芝附け致します迄に束ねてある相互の芝がやゝもすればすれて嫩を生じ枯れるやうな事もあるのであります。又秋期におきましてあまりおくれます時は未だ根の充分に活着しない中に霜柱なき立つやうになりましてそのため斜面などでありますれば崩れ落ちる事もあり平地にありましてもこの爲に根が浮き上りまして枯死する場合もあるのであります。やむなくかゝる時期に芝附け致しましたものにはその冬には藪又は莖の類を覆つて凍結を防がなければなりません。

## 二、芝の種類

大別しますれば日本芝と西洋芝との二通りであります。一般に使用されて居りますのは日本芝であります。

更にこの日本芝を莖葉の粗密、質の強弱等に依りまして野芝、中芝、高麗芝の三種類に分けて居ります。

野芝は葉が廣く、粗剛であります。質は丈夫であります。それ故に運動場等の如く使用の頻繁な廣い場所に用ひられます。

之に反して高麗芝は葉が細く弱々しいのでありますが外觀は最も美しく従つて家庭用としての小面積の場所や觀賞を主としたあまり踏み入らないやうな場所に多く使用されて居ります。

中芝は兩者の中間にあるものでありますがこの限界は漠然たるものであります。人により中芝と高麗芝とは同一に扱つて居る場合もあります。

### 三、芝の附け方

張り附け法ミ播き附け法ミの二方法があります。

普通に行はれて居りますのは前者の張り附け法であります。

張り附けに用ひます芝は大抵長さ三十糎、幅十五糎位の大きな長方形に切つたものを四十枚重ねて一束にして芝一坪さいつて居ります。けれども是は實面積の一坪よりは稍々少ないのでありますが是を張り附けます時に各々の間を少しづつ明けますので丁度一坪位に張り附けられるのであります。

その張り方は先づ二月號で申しましたやうに第一に地拵へをする事であります。

次に用意出來ました所に切芝を並べるのであります。その並べ方には種々あります。即ち縁取用の如く幅の狭い時、又は芝生の如く広い場所に張る場合もあり、或は芝を節約する場合等に依りまして異なるのでありますがいづれに致しましても芝相互の間は接近させないでその間に隙間を爲さるのであります。之は新しい根の繁茂を容易にさせる

であります。廣さは三糎内外を適度にして居ります。あまりに廣い時は又是が接近する迄に長時間を要する事になります。この間隙を目地ミ呼んで居ります。植木屋の申しますにはこの目地を整然ミこつてゆくにはかなりの手数を要するので多少芝は多く要しても目地をこらないうで並べた方が工賃に於てすつミ經濟につくミの事でありましたが芝の爲を考へますならばこの目地はこつておく方がよいのであります。尙一枚一枚も縦横に多少引張り加減にして並べるのであります(圖を参照)。

そして長い方の兩端は長さ十四、五糎の竹串でこめておきます。時にはこの竹串は省く事もありますが傾斜地にありましては必ずしておきませんミ崩れ落ちる心配があります。この串は箆を利用して節の所を上にするやうに用ひればよいのであります。

次に目土さいつて目地及び張芝の上に厚さ二糎位に土を篩にかけながら平にかけてゆくのであります。

更にこの上を板又は輕いローラーでかろくおさへその上に充分の灌水を致します。

このやうにしましたものは二週間もたちますれば根付き  
ますので短時日で觀賞する事が出來ます。

次に播き附け法といひますのは絡み合つた芝を全部ほぐ  
しまして長さ六、七種に切り、芝一坪分を實面積三坪位の  
廣さに播きちらすのであります。そしてこの場合の目土は  
前よりも厚く三種内外にしておきます。その他の管理は前  
同様でよろしいのでありますけれども觀賞する迄には前方  
法に依りましたものよりも長時日を要するのであります。

以上申しましたのは芝附け法の極普通の仕方でありまし  
て或地方におきましては切つた芝を赤土を混合して張り  
付ける所もあることが聞いて居ります。

#### 四、芝附け後の管理

##### 1、除草

芝を常に奇麗に保ちますには絶えず除草を行はねばなり  
ません。

張り附け、播き附けの前に充分除草して残株、残根のな  
いやうにしておきます事は勿論でありますけれどもその後  
におきましても、常に注意して見付け次第根から取り除か

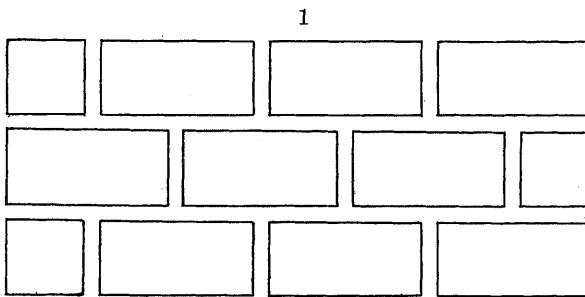
なければなりません。手で抜け易いものは手で抜き、宿根  
性のものでありまして容易に抜き難いやうなものならばナ

イフか、鎌のやうなものを  
使用するのであります。

##### 2、刈込

除草と相並んで大切な  
は刈込みであります。

芝は常に短かく刈込みま  
して、地下莖によく空気を  
送り根を浮き上らせないや  
うに莖葉のしまつたものに  
育て上げる事が肝要であり  
ます。それには五月から九  
月頃までの生育期間には出  
來ますれば月一回の刈込み  
を行ふこよいのでありま



す。九月以後になりましたは伸びるにつれて時を見て刈込  
めばよろしく二、三ヶ月に一回位の割合であります。少な

くも年四、五回は刈込みたいものであります。

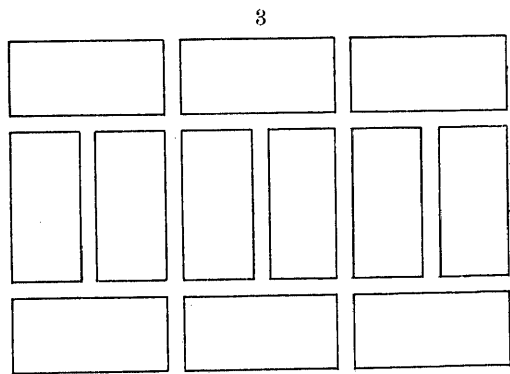
尙芝は勢力の旺盛なものでありますから、年を経るに共に段々地下莖が方々に漫延して縁取りにしたものなごは

その花壇の内外にはみ出しまして形を亂しますから春秋二回は刈込みと同時に蔓切を行ひまして形の亂れぬやうその餘分の地下莖を切り取る事をも忘つてはなりません。

刈込み用具としては小面積ならば鎌を用ひ、廣面積の場合にはローンモアーを使用致します。そして芝が水分を帯びてゐる時は刈込みが容易でありますから、朝露のある時、又は雨後の濕りのありま

す時に刈るのが最もよいこのころであります。蔓切りは鎌を用ひる事もありますが大抵は鋏で出来るのであります。

### 3、肥料



芝はか弱い草花のやうに度々施肥する必要もありませんが年一、二回はやるのであります。そのうちでも芝附けしました最初の早春には新芽の出るのに先だつて用意しておきました肥土（即ち油粕、魚肥等を土壤中に混合して堆積しておい

たもの）を目土として二糶位の厚さに萬遍なく篩ひかけるのであります。かやうに致しましても尙芝の葉色が綠濃くならないで勢が思はしくないやうでしたら時に應じて液肥をかけるのであります。液肥として用ひますものは油粕の上澄み液、又は下肥のいづれでもよいのであります。家庭用として春以後の芝使用時期にありましては残渣を止めて

使用出来かねますから代りて智利硝石を使用するのが便利であります。是は又芝より弱い雑草を枯死させる働きをもつて居りますので除草をも兼ねる事になります。

水に極めて溶け易く着色する事も、悪臭もなく、使用時に臨んで適當量を水中に入れ數回攪拌さへすればよいのであります。適當量を申しますのは水一斗に對して智利硝石三十匁の割合に溶かしたものを普通使用して居ります。

使用上の注意としては如露でくまなくかける事、むらにかけますと施肥した部分丈が葉色がよくなり芝の縁に不同が出来て見にくいものであります。又化學肥料は一般に作用が激烈ですから濃すぎないやうに稀める事でありませう。

#### 花壇の植込みに就て

本月に入りますればいよいよ花壇の植込みに忙しくなります。

秋植込みました球根類を觀賞するかたはらフレーム内で育生しましたマーガレット、シネリヤなどの満開になったものを豫定の場所に下さなければなりません、露地植のパンジー、ストック、バージニアストック、デージー、金盞花、鉢植にしておいたルーピナスなども夫々花壇草

して用ひられるのであります。

又春植の球根類も夫々芽分け、株分けを行ひまして植込みしなければなりません。

苗床には秋花壇を賑はす爲の種子も播きつけなければなりません。

#### (七八頁より)

ピツタリくつついてしまひました。

鯨の口から飛び出した船乗りはそのままお母さんの家へ歸つて、お嫁さんをもらつて其後楽しく暮しました。

鯨もまたそうでした。たゞその時以來さいふものは、あの船乗りの残して行つた格子がさうにも喉につかへて、咳をして吐き出すことも出来なければ、一呑みに呑み下してしまふことも出来ないのです。で今でもこの格子が大へんな邪魔になつて、鯨はあの大きな體でぐくぐく小さいお魚の外は何にも食べられなくなつてしまつて、だから鯨はあなた方、可愛い坊ちゃん嬢ちゃんを決してまつて食べたりなさしくなつたさいふお話ですトサ。(おはり)